

富山大空襲80年祈念事業



あの日、富山が燃えた。

富山大空襲の記憶

1

Chapter



写真・あの日を描いた被災者

戦後は今も続く

大石芳野が被災者の今を撮る

2

Chapter



写真・語り継ぐ三世代

平和を生きる私たちへ。
記憶を受け継ぎ、未来へ

3

Chapter

富山大空襲

～戦禍をこえて80年～

2025 **7.12** (土) → **17** (木) 10:00-19:00

※最終日は17時終了

富山県民会館 地下展示室【入場無料】

『朗読と被災者の語り』 7.13 (日) 14:00～

主催／「富山大空襲」展示会実行委員会 主管／富山大空襲を語り継ぐ会

後援／富山県、富山県教育委員会、富山市、富山県教育委員会、北日本新聞社 協力／富山県公文書館、香希画廊

富山大空襲80年祈念事業

富山大空襲

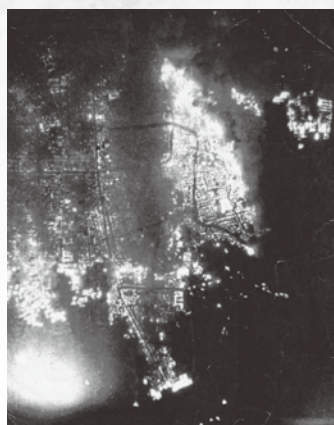
～戦禍をこえて80年～

2025 **7.12**(土) → **17**(木) 10:00-19:00
※最終日は17時終了

富山県民会館 地下展示室【入場無料】

1945年8月1日から2日未明、富山の街も遂に火炎に包まれました。米軍のB29爆撃機からの焼夷弾による大規模な空襲で、街の99.5%が焼失しました。多くの命と暮らしが失われた戦争の悲劇は決して過去のものではなく、今を生きる私たちが受け継ぐべき記憶でもあります。

この展示では、当時の写真や証言、被災者の描いた絵画、被災者の今を写した写真などを通じて富山大空襲の実態の一端を伝え、戦争の教訓を問います。



降り注ぐ焼夷弾により燃え盛る富山市街



県立富山高等女学校前から市街の焼跡を望む



総曲輪丸の内方面の焼跡



紙芝居 絵：徳永幸子



絵：若林ウタ

戦後は今も続く

——写真家 大石芳野が富山空襲被災者の今を撮る

写真家・大石芳野氏が2022年から取材・撮影を続けてきた富山大空襲の被災者たち、戦争体験を三世代で語り継ぐ家族など、焦土と化した町で生き抜いた人々が語る言葉と、その現在の姿を記録した写真を初公開します。



大石芳野

プロフィール▶東京都出身／日本大学芸術学部写真学科卒／東京工芸大学元教授／2004年世界平和とアピール七人委員会委員／(公社)日本写真家協会会員／日本ペンクラブ会員／ドキュメンタリー写真家

世界各地の戦争、内乱後の人々や国内の空襲被害者などに寄り添い、取材を続けるなど非戦をカメラとペンで訴えている。

受章、受賞歴▶日本写真家協会年度賞(1982年)、芸術選奨新人賞(1994年)、土門拳賞(2001年)、紫綬褒章(2007年)、日芸賞(2008年)、第8回澄和Futurist賞(2023年)他

主な著書▶「戦争は終わっても終わらない」「戦禍の記憶」「わたしの心のレンズ 現場の記憶を紡ぐ」(最新書) その他著書・写真集多数



特別企画

「平和への想い」を届けませんか？

会場内にメッセージボードを設置しています。
平和への願いや大切にしたい想い、次の世代へのメッセージなど、自由にご記入ください。

開催予告

「夏の集い」講演会

8.2(土) 14:00～ 富山県民会館 7階

講師：奥田 史郎氏『八月二日、天まで焼けた』の著者

同時開催

もう一つの空襲 ～長岡の記憶～

富山市と同じ夜、新潟県長岡市も空襲を受け、多くの命が失われました。二つの都市の記憶を重ね、戦争の悲劇に向き合います。

◎戦争に関する遺品を募集しています。

記憶をつなぐ貴重な資料のご提供方法をお知らせします。

お問い合わせ／富山大空襲を語り継ぐ会事務局

TEL:076-423-1122 E-mail:shibamoku@nifty.com(柴田)

<https://www.toyamadaikushu.com>

